

出前授業 in 八幡小学校!!

11月11日(火)に仙台市介護人材確保取組み実行委員会の主催で行われた出前授業。仙台市立八幡小学校4年生109名の児童たちと、高齢者の介護について3つのテーマに取り組みました。児童たちは、事前にユニバーサルデザインの学習をしており、自分の生活のなかにある身近な「ふくし」についても学んでいました。今回は、疑似体験等を通して手助けが必要となった高齢者の方へどのような対応をし、どんな声かけをするといったかを学びます。



車いす体験 ～どんなことに困るか考えてみよう～



初めて車いすに触れる児童も多く、車いすの乗り方、押し方、段差の上り下りのコツを確認後、2人1組で体験スタート。いつも何気なく越えている段差も、車いすに乗って1人では越えられず介助が必要💦介助する側も思うように操作ができずに大苦戦😓
丁寧な声かけをしながら、安全な車いすの介助の方法を体験しました。

高齢者疑似体験

～年をとるとどうなるの？～

加齢による身体的な変化を体験できるキットを装着。ゴーグルや重りで体に負荷をかけ、仕上げて歩行補助の杖を持ち、
👉おじいちゃんおばあちゃんに変身!!
介助する側も、転倒防止のため危険な場所にはしっかりと声かけが必要です。
疑似体験では、見えにくさ聞こえにくさからくる不安や、体が思うように動かない大変さ、隣に介助の人がいる心強さを感じていました。



「認知症」について

～自分に何ができるか考えよう～



認知症の高齢者との関わりで起こりうる場面から、望ましい対応をクイズ形式で学びました。認知症の基礎的な知識や、それぞれの場面でどんな対応ができるかを一緒に考えました。話し方のコツは

「目線を合わせて😊

優しく、ゆっくり、一つずつ」

また「介護」という職業は、高齢者の方々の生活を支えるために必要なお仕事なんだということも学びました。

これからあなたが体の不自由なお年寄りや高齢者にできることはなんですか🤔
(児童たちの声を一部抜粋)

思いやりを持って行動し、何に困っているかきちんと聞く。
車いすは1人では乗りにくかったので、困っていたら助けてあげたい。
人を大切に思うことが大切なんだと思いました。
勇気をだして手助けや声かけをしたい。 電車やバスで席をゆずりたい。
体験でどんなことが大変かやりにくいかが分かったので困っていたら手伝いたい。
様子変だなと思ったら、近くの大人に知らせる。
将来、体の不自由な方ができるだけ生活しやすい場をつくりたい。
耳が聞こえない人に手話で会話ができるようになりたい。